

特別展

「千島・樺太・北海道アイヌのくらし」
ドイツコレクションを中心に

今年は日独交流一五〇周年に当たり、本特別展ではドイツのライプツィヒとドレスデンの民族学博物館の収蔵資料を中心に、本館の資料もまじえて、各館秘蔵のアイヌコレクションを紹介いたします。いずれも一〇〇年以上前に収集された名品ばかりです。北方の美の世界をご堪能ください。



魚皮製衣服(樺太)ドレスデン民族学博物館所蔵

会期 12月6日(火)まで
会場 特別展示館

■関連イベント
◆国際シンポジウム
「アイヌ文化研究の可能性を求めて」
古い資料を活かすつ、これからの研究や文化継承をどのように進めるか、新たな視点での研究やアイヌ民族との共同研究などを例に、若手研究者が発表と討論を行います。
日時 11月12日(土) 10時30分～17時25分
11月13日(日) 10時～16時
会場 第4セミナー室(定員80名)
※参加無料、要申込(先着順)
参加申込方法
Eメール・FAX・往復はがきにて左記内容を記入の上、左記宛先までお申し込みください。
【記入事項】
①参加者の人数
②参加者の氏名(ふりがな)
③電話番号(代表者) ※当日の連絡可能な番号
④FAX番号(FAXでのお申し込みの場合)
⑤往復はがきでお申し込みの場合は返信用の宛先
【宛先】
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10-1
国立民族学博物館「2011年秋季特別展事務局」宛
E-mail: tokuevent@idc.minpaku.ac.jp
FAX: 06-6878-7506

◆「Anu Past and Present」
「ハンノのフィルムから見えてくるもの」
日時 12月4日(日) 13時30分～15時45分
(開場13時)
会場 講堂(先着450名)
※参加無料、申込不要
※当日10時から講堂入口にて整理券を配布
お問い合わせ先
広報企画室 企画連携係
電話 06-6878-8210
◆ギャラリートーク
11月5日(土)、11月23日(水・祝)、
11月26日(土)、12月3日(土)

みんぱくセミナー

会場 国立民族学博物館 講堂
時間 13時30分～15時(13時開場)
定員 450名(当日先着順)
参加費 無料(展示をご覧になる方は、観覧料が必要です)

第402回 11月19日(土)
「特別展開連」
絵画にあらわれたアイヌの風俗
講師 佐々木利和(北海道大学教授)



間宮林蔵「北蝦夷図説」
函館市中央図書館所蔵

描かれたアイヌの世界にはいつてみましよう。19世紀半ば以前、かれらは「蝦夷」と呼ばれていました。その姿が描かれた最古の例は延久元年(1069)です。さてその画例からどのようなアイヌ像が得られるのでしょうか。

第403回 12月17日(土)
中東のキリスト教徒——したたかなマイノリティ
講師 菅瀬晶子(国立民族学博物館助教)



イスラム教徒が人口の90%以上を占める中東で、圧倒的少数派ながら、「イエスが生まれ育った土地」に生きる者としての誇りを持つキリスト教徒たちが、あまり知られていない彼らの日常生活やイスラム教徒との関係、歴史のなかでの役割を、パレスチナやレバノンなど、東地中海地域の事例をもとにご紹介します。

国立民族学博物館友の会 電話06-6877-8893(平日9時～17時) FAX06-6878-3716
http://www.senri-f.or.jp/ e-mail minpakutomo@senri-f.or.jp

友の会

友の会講演会(大阪)

会場 国立民族学博物館 第5セミナー室
定員 96名(当日先着順、会員登録必須)

第402回 12月3日(土) 14時～15時
「ビデオトークより」
ペー族の映像民族誌
——伝えたいことをどう伝えるかの葛藤——
講師 横山廣子(国立民族学博物館 准教授)
映像では、モノでは表現することのできない人びとの生活の雰囲気を描き出し、祭りや儀礼などを一連の流れのなかで伝えることができます。制作中のペー族のマルチメティア番組「雲南省のペー族の暮らしと文化」の映像をもちいて、彼らの生活を紹介しながら、映像として表現するうえでの悩みや工夫についてもお話します。

第403回 1月7日(土) 14時～15時
「フィールドワークの醍醐味を語る」
アマゾン川上流のキリスト教文化
——ボリビア、モホス平原の自然と歴史——
講師 齋藤晃(国立民族学博物館 准教授)
アマゾン川流域の南西の端、アンデス山脈との狭間には、日本の総面積の約半分に相当する広大な平原が広がっています。高温多湿の厳しい自然環境における人びとの暮らし、そして西欧との接触以降の複雑な歴史を、わたしの個人的体験を交えてご紹介いたします。

第404回 2月4日(土) 14時～15時
「フィールドワークの醍醐味を語る」
マヤから世界へ
——私のフィールドワーク体験——
講師 鈴木紀(国立民族学博物館 准教授)

《今後の催しのお知らせ》
「体験セミナー」
「日本酒つくりの今と昔(仮)」
2012年2月下旬～3月
「研修の旅」
「バルカン半島西部を訪ねる(仮)」
2012年5月頃(10日程度)

◆みんぱくセミナー
左のページをご覧ください。
◆みんぱくウィークエンド・サロン
特別展及び企画展開催中は、おもに特別展、企画展開連のお話をお届けします。詳細は24ページをご覧ください。

カムイノミ(神への祈り)

みんぱくに収蔵されている標本資料への感謝と安全を願い、カムイノミをおこないます。
日時 11月25日(金) 10時30分
会場 玄関前広場
(雨天の場合は、屋内への変更あり)

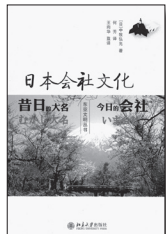
企画展

「インド ポピュラー・アートの世界」
近代西欧との出会いと展開

インドの庶民の間で親しまれてきた風景画や宗教画、広告など約140点のコレクションを展示し、インドの人々の美意識や宗教観の変遷をたどりまします。
会期 11月29日(火)まで
会場 本館展示場内

刊行物紹介

■中牧弘允 著 何芳訳 王向華 監訳
『日本会社文化——昔日の大名、今日の会社』
北京大学出版社



『むかし大名、いま会社——企業と宗教』(淡交社、1992年)の全訳。中国語訳に際し、監訳者の序文と著者の中国版自序がついている。香港大学現代語言及文化学院の企画した東亜文明双書のシリーズで最初の刊行物。原著を端緒とし、民博が現代企業の人類学的研究の拠点となっていること、また日本企業が文化的伝統を継承していることなどが序文で紹介されている。

■三尾 稔・福内千絵 編
『インド ポピュラー・アートの世界——近代西欧との出会いと展開』
千里文化財団 定価:1,575円



企画展「インド ポピュラー・アートの世界——近代西欧との出会いと展開」の関連解説書。図版も多数使って、19世紀半ば以降のインドのポピュラー・アートの成立や発展、現在の姿についてわかりやすい解説を加えた。

●展示場新構築のお知らせ
ヨーロッパ展示とインフォメーション・ゾーンが来年3月に新しく生まれ変わります。それに伴い近日中にヨーロッパ展示が、展示場新構築工事のため閉鎖される予定です。今のヨーロッパ展示の見納めですので、ぜひ展示場足をとお運びください。
●無料観覧日のお知らせ
11月3日(木・祝)は文化の日、19日(土)、20日(日)は関西文化の日のため、本館展示・特別展を無料で観覧いただけます。ただし、11月3日は、自然文化園(有料区域)を通行される場合、入園料が必要です。
東日本大震災被災地に対する本館の取り組みについてはホームページをご覧ください。
●毎日新聞夕刊連載「旅・いろいろ地球人」
みんぱくの研究者のエッセイが毎週木曜日に掲載されています。
*電話でのお問い合わせの受付時間は9時から17時(土・日・祝を除く)です。

国立民族学博物館 ミュージアム・ショップ
電話 06-6876-3112
FAX 06-6876-0875
e-mail shop@senri-f.or.jp
水曜日定休
ウェブサイトもご覧ください。
オンラインショップ
「World Wide Bazaar」
http://www.senri-f.or.jp/shop/

企画展「インド ポピュラー・アートの世界」関連商品

現在、開催されている企画展「インド ポピュラー・アートの世界——近代西欧との出会いと展開」(会期11月29日(火)まで)にあわせて、ショップでは、インドのさまざまな神々が描かれたポーチやバッグをとりそろえています。
ぜひ、お気に入りの神様を見つけてください。ガネーシャのお守りや壁飾りなど、たくさん関連商品がみなさんの来店をお待ちしております。



神様ポシェット 525円
神様バッグ 1,575円
神様エコバック(ジユート) 1,260円(すべて税込み)